

## ベルリン国立アジア美術館で個展開催 日本画家・平松礼二さんに聞く

昨夏フランスのジヴェルニー印象派美術館での個展に続き、この6月からドイツのベルリン国立アジア美術館で展覧会が開催される運びとなった平松礼二さん。巨匠クロード・モネを魅了したジャポニスムを源流に、独自の装飾的絵画世界を追究。今では国際作家として内外から注目を集めるまでになったベテラン画家に、今展への意気込みなどを聞いた。

——ジヴェルニー印象派美術館での個展は、公立美術館による現存の日本人作家の企画展として、また、出品作すべてが買上げという異例づくしの扱いが話題となりました。加えて、会期中7万4000人という同館はじめて以来の入場者数を記録するなど、反響のすごさも伝え聞いています。それからわずか半年、今度はドイツの国立美術館での個展開催というサプライズ。その実現までの経緯をお聞かせください。

「ドイツの日本大使館の方が展覧会の評判を聞いてジヴェルニーに来られたんですが、ほどなく、ベルリン国立アジア美術館の館長が見え、展示を見てこれをやろうということになったようです。実はその館長と学芸員の方には、前年、ベルリンでお会いして食事をする機会があったんですが、その時は展覧会の話など一切ありませんでした

から、今回の成行きには正直、驚いています」

——ドイツというと質実剛健なお国柄、民族性をイメージしますが、日本美術への認識や理解についてはどのように思われますか。

「例えばフランスには、ジャポニスムというイイズムがあって、それを吸収昇華した印象派が日本に入って来るといって、芸術・文化の交流、理解があると思うんです。でもドイツとなると、医学やサイエンス分野での関係は深いですが、芸術としてはクラシック音楽以外、ちょっとと思いつかない。ですからフランスが装飾性の強い私の作品で個展をやろうというのは分かるんですが、ドイツでやってどうなんだろうという気がしないでもないですね。これが彼の地とゆかりの深い東山魁夷先生のようにきちっと

ればこそという気がします。

「さあ、どうでしょうか。これまで自分の感覚と方向を頼りにずっとやってきたわけですけど、それが外国で受け入れられるのが不思議です。これがアジア圏だと文化の源流が一緒だったりするので領けるんですけど、まったく異なるヨーロッパなわけですからね。でもこうして声をかけていただけるとは本当に有難いことです。私の作品世界を通じて日本美術の伝統的な部分と革新性をいろんな角度から見ただけ、画家冥利につきますね。そしておそらく日本画という言葉もジャポニスムという語意も馴染のないドイツでの反応を楽しみにしつつ、開催を前にある種の緊張感と不思議な浮遊感を感じています」

——展覧会の成功をお祈りいたします。有難うございました。



モネの池 微風 180×720cm  
六曲一双屏風 2013  
ジヴェルニー印象派美術館蔵

描き込んだ作品ならまだしも、私の場合、遊びが入っていてポップ調な感じもあるので、果たしてどう受け止められるの想像もつきません」

——今回の展示はどのような内容になるのでしょうか？

「ジヴェルニーの平松コレクション(26点)からセレクトした14作品からなります。大作屏風も2点入っていますが、うち1点の《モネの池 微風》は新たに描きおろしたもので、ジヴェルニー印象派美術館の新収蔵となった作品です。展覧会に出品した《ジベルニー モネの池・風音》が日本の美術館の持ち物でしたから、その連作として制作しました」

——これまでどの団体にも所属することなく、独自の日本画を追及されてこられたわけですが、フランス、ドイツと相次ぐ国際展の実現は、強烈な個性を放つ作品世界あ



ひらまつ・れいじ  
1941年東京生まれ、46年名古屋に転居。58年旭丘高校美術課程に入学。以後、青龍社のメンバーとして活動を続け、65年愛知大学卒業。76年からは創画展、横の会などを中心に発表。個展、グループ展多数。主な受賞に山種美術館大賞展大賞、MOA岡田茂吉賞大賞、中日文化賞など。また、その間、多摩美術大学教授、了徳寺大学学長を歴任。2013年フランス・ジヴェルニー印象派美術館で〈平松礼二・睡蓮の庭 モネへのオマージュ〉展開催。



【右上】幻想・モネの池 117×117cm 2011 【下】金色の雲映る 65.2×90.9cm 2010 【左上】冬の池・ジヴェルニー 80.3×116.7cm 2011 ※作品はいずれもジヴェルニー印象派美術館蔵



## 《平松礼二展 睡蓮画・モネへのオマージュ》 in ベルリン国立アジア美術館

昨年7月13日から10月31日まで、フランス・ジヴェルニー印象派美術館で開催された「平松礼二・睡蓮の庭 モネへのオマージュ」展の成功を受け、今夏、6月12日からドイツのベルリン国立アジア美術館で、「平松礼二展 睡蓮画・モネへのオマージュ」展が開催される。

出品内容は新たに描かれた『モネの池 微風』と『水と樹と睡蓮の交響楽』の2点の大作屏風を中心に、ジヴェルニー印象派美術館・平松コレクションからセレクトされた14作品で構成。日本から世界へと活動

の場を広げる平松芸術のさらなる発展を予感させる。また、舞台となるベルリン国立アジア美術館は、首都ベルリン郊外に位置し、今年で創立108年を迎える歴史的殿堂。優れた日本美術のコレクションで世界的に知られ、2008年には同コレクション展が日本各地で開催されている。

日本画界の第一人者、平松礼二の煌びやかなジャポニスムが、果たしてベルリンつ子にどのように受け止められるのか。興味は尽きない。



### 平松礼二展 睡蓮画・モネへのオマージュ

会期——6月12日～8月31日

会場——ベルリン国立アジア美術館

主催——在ドイツ日本国大使館、ベルリン国立アジア美術館

【講演会】

日時——6月12日 18:30～ 入場無料、事前予約不要

会場——ベルリン日独センター

展覧会についての問合せ

平松礼二展実行委員会 (S&D)

東京都豊島区西池袋2-36-1-510

Tel.03-5992-2002 Fax.03-5396-5500

<http://www.reiji-hiramatsu.com>